

日本臨床検査専門医会

平成 29 年度第二回常任幹事会議事録

平成 29 年 9 月 30 日

日本臨床検査専門医会

平成 29 年度 第二回常任幹事会議事録

開催日時：平成 29 年 9 月 30 日（土曜日）15 時 00 分～16 時 30 分

場 所：日本臨床検査専門医会事務所

出席者：登 勉 会長，東條 尚子 副会長，本田 孝行 副会長

木村 聡，佐藤 麻子，土屋 達行，古川 泰司，宮崎 彩子，盛田 俊介，米川 修，
三宅 一徳 各常任幹事，佐守 友博 監事

欠席者：高木 康 監事

事務局：市川 綾子

（敬称略）

定刻，登勉会長挨拶の後，議長として登勉会長を満場一致で選任した。議長は議長席につき開会を宣した。

[審議事項]

第 1 号議案 議事録署名人選任について

議長は，本会の議事録署名人の選出を議場に諮り，下記の 2 名を議事録署名人として満場一致で選任した。

議事録署名人：土屋 達行，宮崎 彩子 各常任幹事

[報告事項]

1. 平成 30, 31 年度会長，監事選挙報告

三宅 一徳庶務・会計幹事より以下の報告があった。

平成 30, 31 年度会長・監事選挙は，9 月 19 日に投票締切，9 月 24 日に開票し，会長選挙は，投票総数：253 票，有効投票数：247 票，無効投票数：6 票で，1 位 登 勉先生：243 票（98.4%）白票：4 票という結果であった。

監事選挙は，投票総数：449 票，有効投票数：445 票，無効投票数：4 票で，1 位は 23 票同票で 佐守 友博先生，土屋 達行先生，次点康 東天先生：10 票，白票：16 票という結果であった。なお，得票数第 3 位は，康 東天先生，佐藤 尚武先生，三宅 一徳が獲得票数が同数であったため，選挙管理委員会にてくじ引きによって次点者を決定した。

登会長より，以下の発言があった。

投票総数が会員数に比べると少ないのが課題である。会務運営の継続性の点からは監事任期を 4 年として 2 年毎の改選が望ましいが，会則の大幅な改定が必要であり，今後の検討課題としたい。委員会活動についても現委員から次期委員長を推薦いただきたい。

2. 各種委員会報告

①情報・出版委員会

盛田俊介委員長より以下の報告があった。

LabCP（信岡先生担当）、月刊 Lab（福地先生担当）、JACLaP NEWS（五十嵐岳先生担当）、JACLaP WIRE（盛田先生担当）は、いずれの先生方も順調な発刊。五十嵐先生は編集主幹を増田先生から交代し、現在 131 号発行を準備中。今後の誌面内容として双方向性のメディアとなることを目指していきたい、との提案があり、委員会の中で持ち回り審議をしながら方向性を決めていきたい。

②教育研修委員会

米川修委員長より以下の報告があった。

- ・教育セミナー：5 月 21 日に古川常任幹事の協力により帝京大学霞ヶ関キャンパスで開催。アクセスがよいが、参加人員が多く部屋が手狭となった。来年度、受講者が多い場合は別に部屋を準備したい。受講者からは遺伝子検査についても講習に追加して欲しいとの要望があり、検討したい。
- ・平成 30 年度春季大会での生涯教育講演会は医療安全の観点から、講演 2 題を予定。会場は収容人員は 200～250 人と多く、専門医共通講習（医療安全）として開催する予定。

③資格審査・会則改定委員会

土屋達行委員長より、前回会議（6/17 全国幹事会）以降の入会者は 2 名、退会者は 1 名であることが報告された。また、以下の報告があった。

- 1) 来年度の名誉会員候補 6 名、有功会員候補 6 名については、いずれも委員会の持ち回り審議で全員が承認された。会費未納者について確認の上、本年第 2 回総会で承認を得る予定である。
- 2) 新専門医制度の発足にあたり、会則改定の案を作成した。概略は、正会員については B 会員は今までどおりとし、A 会員を 2 種類に分ける
 - ア) 新専門医制度の専門医（基本領域の臨床検査専門医）（更新者）
 - イ) 学会認定専門医（仮称）
- 3) 細則の変更について
 - 会則第 28 条では総会の承認を得なければならないが、細則は幹事会の承認で変更できるようにしたい。持ち回り審議で、委員全員から承認は得ている。

登会長より、機構認定と学会認定の専門医、また非更新者も増加する可能性があるとの指摘があった。また佐守監事より専門医非更新者についても A 会員のままとすることも検討いただきたいとの発言があった。土屋委員長より A 会員か否かは被選挙権と関係するとの説明があり、専門医制度の動向を見て継続検討を行うこととなった。

④渉外委員会

東條尚子委員長より以下の報告があった。

7/21 に振興セミナーを開催し、多数の参加を得た。セミナー運営に協力いただき賛助会員が固定しており、交代を要望する会員がある。来年度のプログラム内容を含め学術集会時に委員会を開催し検討したい。

⑤広報委員会

木村聡委員長より以下の報告があった。

- 1) 霞が関こども見学デー 201年8月2, 3日, 厚生労働省で開催
田部陽子, 五十嵐岳, 一色美和, 堀内裕紀 各先生が検査医として参加。子どもたちが臨床検査に興味をもつよい機会になっている。
- 2) 第64回日本臨床検査医学会年次学術集会における展示とイベント（田部委員担当）
・ワークショップ「新専門医時代 ～臨床検査専門医が考えていくべきこと～」
平成29年11月18日（土） 午前10時00分～14時10分
 1. 臨床検査の魅力（これから臨床検査専門医を志す方々に向けて）
 2. 臨床検査医のキャリアパス（研修医, 専攻医による臨床検査医学への抱負）
 3. 子育て・ワークライフバランス
 4. 各施設における医師と技師の連携

以上, 土曜日一日通してのイベントなる。ポスター展示では自分が苦勞した事例などもあり, 子育てのこと, ワークライフバランスと幅広い内容になっている。広さに制限があるため事前登録をお願いしたい。

- 3) 羊土社 月刊誌 レジデントノート（五十嵐岳委員担当）
「臨床検査 Tips」連載中。2018年度も連載継続が決定している。
- 4) パンチングについて
地方の検査技師会に2体ずつある。木村幹事, 専門医会事務局にも1体ずつあるので利用可能。
- 5) ラインスタンプ
8月30日神戸で開催の振興協議会広報委員会で専門家と具体策を討議した。
- 6) 臨床検査医学会ハンズオンセミナー（増田委員担当）
8月27日 東大病院検査部で開催
次回の広報委員会は11月18日土曜日に（学会のワークライフバランス/新専門医制度広報アドホック委員会と合同）京都で開催予定。

⑥保険点数委員会

古川泰司委員長より以下の報告があった。

- 1) 平成30年度診療報酬改定提案書作成し, 内保連経由保険収載技術提案書は最終的に19案件を提出。7月21日に厚労省ヒアリングを実施。本会からの主な提案は,

①血液採取量の増点, ②MSI の適応拡大, ③免疫電気泳動法診断加算・施設基準, である。③については, 厚労省ヒアリングの際に, 外注でも診断加算を認めてほしい, と要望したところ, それを実施した場合全体としてどの程度の増点になるのか試算が必要とのことだった。登会長からの依頼もあり, 会員アンケートを実施して状況を把握したい

2) 第1回合同委員会は11月17日に京都で開催予定

⑦ネットワーク運営委員会

宮崎彩子委員長より以下の報告があった。

- 1) 山口宏茂先生(兵庫県登録衛生検査センター)を委員に追加したい。
- 2) 広報活動として, 学術集会会場の専門医会受付ブースにPCを置いてログインデモを実施したい。

3. 「全国検査と健康展」報告

佐藤麻子「全国検査と健康展」担当幹事より, 以下の報告があった。

本年度は全国21会場について協力医を募集したが, 応募状況は例年並みであった。中央会場は愛知で登会長の講演が予定されている, 数か所応募者が少ない会場があり, 再募集を行う。また, 各会場に本会, 臨床検査振興協議会の共催表示を出すよう依頼した。

4. 平成29年度第2回総会講演会

三宅一徳庶務・会計幹事より, 本年度の総会講演会は以下の予定であるとの報告があった。

開催日: 11月16日 司会: 三宅 一徳(順天堂大学)

演題「新専門医制度における臨床検査専門医」

演者: 山田 俊幸(自治医科大学)

5. 第64回日本臨床検査医学会学術集会関連

本田孝行副会長より, 以下の共催シンポジウムを予定していることが報告された。

日時: 11月17日(金) 14:30~16:30(120分)

「10年後に臨床検査室は今のままでいられるのか

—臨床検査の多様化とコスト削減の圧力—

司会: 本田 孝行(信州大学), 岡田 健(岡山大学)

1. IoTが支配する検体検査室 黒岩 正康(シスメックス株式会社)
2. テーラーメイド医療と検査室 中谷 中(三重大学医学部附属病院)
3. 生理検査の展望 松村 敬久(高知大学医学部)
4. 検査室のトータルコーディネーター 瀬戸山 友一(LSIメディエンス)

6. 第28回(平成30年度)春季大会(松本)について

本田 孝行大会長より、以下の予定が報告された。

テーマ：臨床検査医の未来への戦略

日時：平成30年5月11, 12日

場所：信州大学医学部附属病院外来棟4階, 大会議室

<プログラム>

5月11日(金曜日)

13:00~14:20 全国幹事会, 信州大学医学部附属病院外来棟4階中会議室

14:30~16:30 生涯教育講演会

1) 医療安全の概論(仮)

九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座 鮎澤純子

2) 医療現場におけるヒューマンエラーとその対策

東京慈恵医科大学附属病院 中央検査部 診療部長/医療安全管理部副部長
海渡健

16:40~17:40 特別講演

Artificial intelligence(AI)で今何ができて今後何ができるか。

信州大学工学部電子情報システム工学科 田中清

18:00~20:00 懇親会(ソレイユ, 信州大学医学部附属病院外来棟5階)

5月12日(土曜日)

9:00~11:00 パネルディスカッション 臨床検査のアジアへ向けての戦略

1) シスメックス, グローバルサポート本部中国・AP部 吉川一人

2) 日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会 未定

3) 日本臨床検査自動化学会 康東天

4) 日本臨床検査医学会 宮地勇人

11:10~12:00 総会

12:10~13:10 ランチョンセミナー (アボット社)

特別講演: IBM Watsonの医療応用はここまで来た

Watson Health Solution, Manager,

IBM Japan, Industry Solutions & Business Development 溝上敏文

13:20~15:20 教育講演1, 2 医療ビッグデータの現状と未来

1) ビックデータと検査専門医の必要性 (仮題)

川崎医療福祉大学 片岡浩巳

2) ビックデータとAI (仮題) Google社, 演者未定

7. 日本臨床検査医学会専門医・管理医審議会報告

三宅一徳庶務・会計幹事より、2017年度第2回審議会(9月2日10:30~12:00)

について以下のとおり報告があった。

1) 第9回臨床検査管理医認定試験受験資格審査結果, 試験予定

講習・試験は11月23日に東京医科歯科大学で実施予定。受験予定者19名。

2) 第34回臨床検査専門医認定試験について

第34回日本臨床検査専門医試験は2017年8月5-6日に杏林大学で実施され、試験概要、合否判定会議の概略が報告され、その内容が承認された。受験者は33名(新規受験者28名,科目再受験1名,全科目再受験者4名)。合格者は29名(合格率87.8%)であった。合格者のうち本会非会員の3名については入会案内を行う。

3) 2018・2019年臨床検査専門医試験,管理医試験について

2018・2019年臨床検査専門医試験の実行委員長は古川 泰司先生,管理医試験の実行委員長は東田 修二先生に決定した。

4) 新専門医制度について

①現状と進行状況

研修プログラムの一次審査を終了し,8月~9月末に都道府県協議会,機構による二次審査が行われ,10月1日以降に専攻医が学会HPから登録する予定。11月中旬以降に統括責任者が面接試験を実施し,採否を決定する。本領域では1月以降の二次募集が必須。

②研修施設

基幹施設は73施設。山形県,茨城県,新潟,滋賀県,和歌山県,鳥取県,香川県,徳島県,沖縄県に基幹施設がない。指導医数 236.03名。希望定員数合計88名。

③カリキュラム制研修について

学会で可否を決定(基本領域専門医取得者?カリキュラム制を選択する理由)。
指導医1名当たり3名までに制限

登会長より専門医認定に係わる審議会機能について,特に本会の関与のあり方について再度検討したいとの発言があった。

8. その他

1) 佐守 友博監事より以下の臨床検査振興協議会理事会報告があった。

臨床検査振興協議会理事会で日本医学会総会に合わせて名古屋で「検査と健康展」あるいは「霞ヶ関子供デー」のようなイベントの開催が検討されている。詳細は今後検討するが,専門医会に対して協力が依頼される可能性がある。

[審議事項]

第2号議案 新年度事業計画について(総会提出予算について)

三宅 一徳庶務・会計幹事より,来年度の予算を第2回総会に提出する必要がある,本年度の予算を元に予算案を作成する予定であるが,新規事業等予算措置が必要な事項について提案・審議の依頼があった。登会長より各委員会から新たな提案がなければ,

予算案は三宅庶務・会計幹事に作成を依頼する旨発言があり、満場一致で承認された。

第3号議案 免疫電気泳動実態調査について

登会長より免疫電気泳動については平成28年診療報酬改定で臨床検査専門医に対するdoctor's fee的な加点が認められたが、外部委託検査では判読しても加点にならないという制限があり、平成32年の改定に向けた実施実態の把握が必要と考え、古川泰司保険点数委員会委員長にアンケートの実施を依頼した旨が説明された。古川保険点数委員会委員長より、アンケート案が提示され、その内容が審議された。審議の結果、アンケート内容は本会幹事にメールで回覧し2週間程度の期間で確認することに決した。

第4号議案 その他

1) 木村聡広報委員会委員長より、以下の提案と案内があった。

(1) 「検査医がいないと健康保険で認められない検査」について

「血液培養グラム陽性菌/陰性菌 薬剤耐性核酸テスト」については事実上、臨床検査専門医か感染症専門医のいる施設でないと出検できない縛りになっている。会員への広報と、春季大会、学術集会等での本検査についてのセミナー開催の提案があった。登会長より、講習が企画可能かどうか検討して行きたいとの発言があった。

(2) e レジフェアについて

「レジナビ」の研修医版であり、専攻医募集のためのよい機会であるとの紹介があった。登会長より、まず臨床検査医学会理事会での検討をお願いしたいとの発言があった。

以上をもって全議案の審議並びに報告を終了したので、議長は閉会を宣し解散した。

議事録署名人

平成 29年 12月 22日

土屋 達行

平成 29年 12月 27日

宮崎 彩子
